

授業 科目	UC1D16	1単位	選択	演習	1学年前期	担当 教員	准教授 小野崎 美奈子			
	子どもの理解と援助									
授業の 概要	① 子どもを理解することの意義とその具体的な方法学ぶ。 ② 子どもを取り巻く環境を理解するとともに、その環境の変化や移行における関りについて学ぶ。 ③ 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について学ぶ。									
	到達目標	学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1. 保育実践において、実態に応じた一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。				○	○	◎	◎			
2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。					◎	◎	◎	○		
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。						○	○		◎	◎
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。			○	◎		◎	◎			
凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はVページ参照										
	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標				復 習			
1	オリエンテーション 保育における子ども理解の意義	シラバスに目を通しておく。 教科書p2-12を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 授業概要、成績評価について把握する。 保育における子ども理解の意義について理解する。 				今後の学びの見通しを立てる。 本時の学習内容をまとめておく。			
2	子どもに対する関わりと共感的理解	教科書p14-23を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 保育における共感的理解について理解する。 需要や共感的理解を表現するための方法を学ぶ。 				本時の学習内容をまとめておく。			
3	子どもの生活や遊び	教科書p26-35を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の生活と基本的な生活習慣について理解する。 乳幼児期の遊びについて理解する。 				本時の学習内容をまとめておく。			
4	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	教科書p38-47を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達と保育者の役割について理解する。 環境としての保育者とはどのようなものか学ぶ。 				本時の学習内容をまとめておく。			
5	子ども相互のかかわりと関係づくり	教科書p50-59を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 3歳未満児におけるかかわりについて理解する。 3歳以上児におけるかかわりについて理解する。 				本時の学習内容をまとめておく。			
6	集団における経験と育ち	教科書p62-71を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> クラスや異年齢集団における子どもの育ちについて理解する。 遊び集団の成立過程について理解する。 				本時の学習内容をまとめておく。			
7	発達における葛藤やつまずき	教科書p74-83を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 自我の発達に関わるつまずきと保育者の援助について理解する。 				本時の学習内容をまとめておく。			
8	保育の環境の理解と構成	教科書p86-95を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと環境について理解する。 保育者Wと環境について理解する。 				本時の学習内容をまとめておく。			

9	環境の変化や移行	教科書p98-107を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く様々な環境の変化や移行の場面について理解する。 環境の変化や移行に影響する要因を理解する。 	本時の学習内容をまとめておく。
10	子どもの理解のための観察・記録と省察・評価	教科書p110-119を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを理解する方法について理解する。 	本時の学習内容をまとめておく。
11	子どもの理解のための職員間の対話	教科書p112-131を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 保育における対話と協働について理解する。 保育者間の対話からどのように地域との協働につながるのか学ぶ。 	本時の学習内容をまとめておく。
12	子どもの理解のための保護者との情報共有	教科書p134-143を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との情報共有の意義について理解する。 子ども理解のための保育者と保護者との情報共有の方法について理解する。 	本時の学習内容をまとめておく。
13	発達の課題に応じた援助とかかわり	教科書p146-155を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 発達課題に応じた保育実践について理解する。 	本時の学習内容をまとめておく。
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	教科書p158-167を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 特別な配慮を要する子どもの現状を理解する。 特別な配慮を要する子どもを理解する方法を理解する。 	本時の学習内容をまとめておく。
15	発達の連続性と就学への支援	教科書p170-179を読んでおく。	<ul style="list-style-type: none"> 幼小接続期における子どもの発達と学びの連続性について理解する。 幼小接続期における連携について理解する。 	本時の学習内容をまとめておく。 学びの成果と課題を把握する。
成績評価	講義への取り組み（態度、レポート等の提出物）（40%） 期末試験（60%） 合計100%			
教員からのコメント	保育実践において、一人ひとりの子どもの心身の発達や学びを理解することはとても大切です。この授業では、子どもを理解するうえでの基本的な考え方、具体的な方法、保育者の援助や態度などについて学んでいきます。学んだそれらの知識を実際の乳幼児の姿や保育場面に結びつけながら、さらに子どもの理解について学びを深めましょう。			
教科書	書名 新・基本保育シリーズ10 子どもの理解と援助 著者 清水益治 森俊之 編 発行所 中央法規	推薦図書	必要に応じて随時紹介する。	